

# 検証・浦和電車区事件の真実 要約版2号

(No. 6~10)

民主化闘争情報 [号外] 2008年4月30日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

## 会社を辞めろ！」と罵声を浴びせて集団で脅迫

2001年1月4~6日の午前・午後の6回、JR東労組浦和電車区分会は、職場講習室でY氏(当該事件被害者)に謝罪を迫る職場集会を開いた。毎回20~30人の組合員がY氏に「裏切り者!」「謝れ!」「バカ野郎!」など罵声を浴びせた。7名の被告も出席していた。Y氏は吊し上げの合間に、京浜東北線で何千人ものお客様の乗車する列車を連日運転していたが、精根尽き果て、事故を起こしかねないと不安で目の前が真っ暗になった。

Y氏は「グリーンユニオン(JR連合)に加入したH氏をJR東労組に戻すためのキャンプだった」と説明してきたが、ある参加者から「作り話」が発覚してしまった。Y氏は、1月19日午前に上原分会長に電話で正直に話したところ、職場に來いと命じられた。講習室では、上原分会長、大潤・山田被告ら15人位が、「お前は組織破壊者だ!」とY氏を3時間吊し上げた。

### 「東労組には言葉の暴力ってやつがあるからよ!」「俺は革マルだぞ!」と脅迫

1月21日、Y氏が電車運転の乗り継ぎの途中、蒲田駅ホームで小黒被告から、「おまえ組合を辞めろ。組合を辞めろってことは会社も辞めろってことだ!」と脅された。また、夕刻の勤務終了後、職場のロッカー室に向かう通路で大潤、八ツ田被告から糾弾を受けた。大潤被告は「組合を辞めろ。組合を辞めろってことは会社も辞めろってことだぞ。会社も辞めろ!」「東労組には言葉の暴力ってやつがあるからよ!」と大声で恫喝した。八ツ田被告も「俺は革マルだぞ!」と脅した。次第に二人に加勢する者も増え、Y氏は10人程に囲まれ約1時間半にわたり脅迫された。その中には、なぜか東京車掌区や浦和車掌区の役員もいた。大潤被告は「これで終わったと思うな!嫌になって会社を辞めたくなるほどやるからな!」とさらに脅した。Y氏は、JR東労組は組織的に退職まで脅すつもりだと思い、絶望的になった。

### 絶望的になり、会社に相談

帰宅したY氏は、会社に間に入ってもらい、組合の脅しやイジメを止めさせてもらうしかないと思い職場に電話した。浦和電車区のK副区長からの連絡で、I区長と相談することになった。Y氏は23日、区長室で本心を打ち明け、助けを懇願した。「精神的に参ってしまい、今の状態では運転にも不安がある」「組合との関係を修復し会社に残りたい。転勤させてほしい」と申し出た。I区長は「もう少し様子をみよう」としたうえで、「支社とも相談してみる。分会長の上原(被告)にも伝える」と述べた。Y氏は会社に残りたい一心で必死だった。

### シリーズ第6号~第10号の経過

- |             |  |
|-------------|--|
| 2001年1月4-6日 | JR東労組浦和電車区分会がY氏を迫る職場集会を開催【No.6参照】  |
| 1月19日       | キャンプ参加の経緯に関する「作り話」が発覚し、Y氏が上原分会長に事実を話す【No.7参照】<br>講習室で上原・大潤・山田被告ら約15名から3次にわたり集団で糾弾を受ける【No.7参照】<br>浦和電車区分会旗開きで大宮地本・浦和支部役員らも挨拶でY問題を糾弾【No.8参照】 |
| 1月21日       | 蒲田駅ホームでY氏が小黒被告から脅される【No.8参照】<br>職場通路で大潤・八ツ田・小黒被告ら約10名から激しい吊し上げを受ける【No.8・9参照】<br>Y氏が会社に脅しを止めてもらおうと職場のJ助役に電話で相談【No.10参照】                     |
| 1月23日       | Y氏が職場区長室でI区長、K副区長に助けを求めて話し合う【No.10参照】  |